

Arcserve UDP 7.0 新機能ガイド

オンプレミスの物理/仮想環境からクラウドまで、あらゆるニーズに応える
統合バックアップ・リカバリ ソリューション

Arcserve UDP 7.0 の主な新機能

Arcserve UDP 7.0 は、Windows Server 2019 をはじめとする最新のプラットフォームとアプリケーションへの対応に加えて、Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) のエージェントレスバックアップ対応と柔軟な復旧、Microsoft Office 365 の保護強化を新機能・拡張機能として搭載しています。

最新のプラットフォームに対応

最新の OS やプラットフォームに対応することで、お客様のデータとシステムを確実に保護します。

サポートするプラットフォームは、以下の通りです：

- Windows Server 2019
- Red Hat Enterprise Linux/CentOS/Oracle Linux 7.6、Debian Linux 9.6 対応

Nutanix Acropolis Hypervisor (AHV) にネイティブに対応

AHV 環境でエージェントレスバックアップでの運用が可能になり、コスト効率の高い AHV のメリットを十分に活用できるようになりました。また、リストアゼロの復旧で多くの利用実績のあるインスタント VM、仮想スタンバイも利用いただけますので、AHV 環境の業務継続が容易になります。

Microsoft Office 365 保護の強化

Exchange Online、SharePoint Online に加えて、OneDrive for Business も保護が可能になりました。増分バックアップと重複排除機能によってクラウドストレージのコストを抑制できるようになります。

新機能の詳細については、[製品ページ](#)、または[カタログセンター](#)でご確認ください。

Copyright © 2019 Arcserve (USA), LLC and its affiliates and subsidiaries. All rights reserved. 参照するすべての登録商標、商標名、ゴロ等はそれぞれの所有者に帰属します。本資料は、情報提供のみを目的としています。Arcserve は本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserve は、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証（商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する默示の保証を含みます（ただし、これに限定されません））も伴わずに、本資料を「現状有姿で」提供します。Arcserve は、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など（ただし、これに限定されません）、本資料に関連する直接損害または間接損害については、Arcserve がその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

